

# 動労千葉 たたかひの記録

1986年3月～10月

宮島義勇監督作品

●組織をうち固め全国へ  
1986.3.30～8.30

大量報復処分と対決し  
被処分者を守り、家族ぐるみの闘いは前進する。  
物品販売運動と全国上映運動——闘いは全国に訴えられ、共感を呼びおこした。

●全国の国鉄労働者の反響が始まった  
1986.8.31～10.10

第三波ストをめざす動労千葉第11回定期大会。  
国鉄労働者全国交流会、ハンスト、国労修善寺臨時大会の大勝利。  
新たな情勢が切り開かれた。

●国会デモから順法闘争へ  
1986.10.12～

国鉄法案強行にたいし、  
動労千葉は怒りの順法闘争に決起した。

# 日刊 動労千葉

86.11.25

No. 2414

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二二七二〇七

俺たちは鉄路に生きる！

待望の 第二報

遂に完成！！

12月 公開

記録映画『俺たちは鉄路に生きる』待望の第二報の完成が真近となり、いよいよ十二月公開される。

一九八六年四月、十月、生死をわかつ血みどろの反響がはじまった一点の火花がついに全国の国鉄労働者の総決起をよびおこした。へ『カニ報』のあらすじ紹介

血と汗で切り拓いた地平からのよびかけが全国にこだます

二八名解雇、四〇〇名以上の大量報復処分をうけながらも動労千葉は「分割・民営化」絶対阻止の旗を高く掲げ、あらゆる闘いの先頭に立ち続けた。

処分撤回の裁判闘争。家族も共に立ち上った。全国様々の労組、友誼団体から支援が寄せられる。被処分者を先頭に、しぶとく大胆に「自前の労働運動づくり」の本領を発揮して「一人ひとりが活動家となって」を合いことばに、全組合員の創意が汗がたぎりと新しい天地を切り拓いていく。生活費と闘争費を自らの手で、第一波・第二波の輪を全国の仲間のもとへ……くつたくな笑い顔が連日、全国を駆けめぐる。

手づくりの物品販売事務所も完成した。「第一報」の全国上映運動は日を追って全国に拡大し、「第三波へ」全国ゼネストへ……北は北海道から、南は沖縄までよびかけられていった。

全国ゼネストへ全国の職場で街頭で、「人活センター」で決起が

政府・国鉄当局は「国鉄解体・ぶんどり」の大陰謀をかけて国鉄法案を上程・強行を策す。屈服・裏切り組合の醜悪な姿、苦闘を続ける現場の仲間！屈服か反撃か、座しての死か、闘って生きぬく道か！全てがギリギリと問いつめられていく中、また一人、また一人、仲間が虐殺された。

「分割・民営化絶対反対の旗を堅持し、一歩・二波の地平をひきつぎ、第三波ストを目指し進撃する」九月一日、動労千葉は第十一回定期大会で宣言を発した。

「大胆な妥協」路線を強行した七月国労全国大会、「雇用確保のため労使共同宣言を結び、闘い



監督宮島義勇が制作に全情をこめて取り組む様子（新日本文芸会（株）東京主催の「カニ報」上映講演集会で講演する宮島氏）

の旗をおろし……とする国労中央の屈服方針に怒りはついに爆発した。九月二四日・中闘委、十月・修善寺臨時大会。「人材活用センター」の仲間を先頭に全国の闘う力は十月十日、国労中央の全面降伏提案を大差でうちやぶり、闘う六本木新体制を確立した。六本木新委員長が反撃に起つ決意を表明した。

国鉄労働者の本当の怒りはこれから動労千葉はその先頭に立つ

一点の火花が今、激しく全国の炎と燃え上ろうとしている。総反撃がはじまった。敵はうろたえた。実質審議もせずに法案強行する国会。動労千葉の怒りの順法闘争が叩きつけられる。秒を競う、息づまる攻防！闘いに起つ者、裏切りに走るもの！決起・弾圧！日に日に闘いは決戦をよびよせていく。

（寄稿・製作上映委員会T生）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

# 俺たちは鉄路に生きる!

動労千葉たたかひの記録

第二報

宮島義勇・監督作品

●16mm・カラー作品  
●上映時間・2時間

## ●第二報の

公開にあたって

ついに情勢は  
動きはじめた

動労千葉の二波のストライキを描いた記録映画「おれたちは鉄路に生きる」第一報は、全国に大きな感動と共感の渦をまきおこした。

一地方のストライキにたいするものとしては空前の大弾圧と大量処分を抗して必死でたたかひぬく動労千葉千名の組合



員と家族の姿が、巨匠宮島義勇監督の映像をとおして、圧倒的な迫力で生き生きと再現され、強烈な感動となって全国の人々の胸をうったのだ。それは、十万人首切り反対、国鉄分割・民営化絶対反対という国鉄労働者の痛切な叫びと共鳴しあい、全国にこだました。

そしてついに情勢は動きはじめた。一点の火花は国鉄労働者の総反撃の合図となった。全国に燃えひろがるハンストの波。国労修善寺臨時大会での歴史的勝利。国鉄法案強行に対決する動労千葉の首都圏をゆるがす順法闘争。さあ、これからが正念場だ。

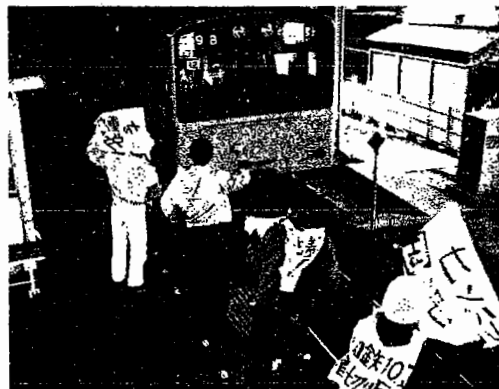
### 宮島監督の

全情熱かたむけた  
感動の長編記録映画

ときあたかも国鉄法案が国鉄労働者の反対の声をふみにじり、強行成立の情勢下にある。人活センター、首切り大合理化、広域配転と差別、選別の本格的開始そして国労への分裂、脱退、組織破壊攻撃が吹きあれている。国鉄問題の当事者である国鉄労働者の実力決起こそが切実であることが、いまや誰の眼にも明らかになっている。

このとき、待望の第二報が公開のはこびになったことはまさに決定的である。この映画、第二報は、二波のストライキ

一点の火花から国鉄労働者の総反撃が始まった。



にたいする二十八名解雇、四百名もの大量復処分という想像を絶する困難をの

りこえて、第三波ストと国労の実力決起をめざして、嘗々として不屈にたたかひぬく動労千葉組合員とその家族のたたかひと生活を生き生きと写し出す。ついにたたかひは全国に拡大し、怒りのハンスト、国労臨大勝利、動労千葉の順法闘争と国労労働者の国会デモへと反撃のうねりがはじまった。

第一報を手がけるなかで、国鉄労働者のたたかひと生活に深く踏みこんだ巨匠宮島監督が、全情熱をそそぎこんで製作した本格的な長編記録映画である。

この映画は、国鉄労働者の不屈の闘魂へのかぎりない讃歌である。そこには苦闘する国鉄労働者への宮島監督の深い愛情がある。この映画をとおして国鉄労働者の勝利の道をつかみとることができ、動労千葉千名の組合員と家族の映画であり、全国で苦闘するすべての国鉄労働者の映画である。



## 第二報

▲10.10国労修善寺臨時大会  
勝利のバンザイ  
労使共同宣言を拒否し、  
分割・民営化反対の旗を守  
りぬいた。

まさにおおせつ!  
上映・物販運動を  
まきおこせ!  
上映すみずみまで  
全国く結合して、  
全国総決起の波と

〈第二報・上映スケジュール〉 (1/25 現在)

- 12月10日(水) 6:00PM 千葉市・千葉県自治会館
- 12月12日(金) 6:00PM 大阪市・中小企業会館
- 12月18日(木) 6:00PM 品川区・南部労政会館
- 12月19日(金) 6:00PM 横浜市・横浜水道会館
- 12月19日(金) 6:00PM 水戸市

(※ 以下、全国各地で ひき続き 上映計画 中 )